

## バイオビジネス経営学特論演習Ⅰ (2単位)

担当者氏名 木原高治

### ◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

株式会社法並びに株式会社制度の基本構造を理解し、制度的な視点から企業経営を分析する能力を培うことを目的とします。経営学は管理論的経営学と企業論的営学に分かれますが、この授業では企業形態論を軸にした企業論的経営学を学ぶことを通して、実際の経営システムの理解を図りたいと思います。

### ◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

<u>企業形態論</u>	株式会社論	会社法	証券法
法人法	民法	債権法	

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	総説(第1回)	授業の内容と方法について受講生と打ち合わせる。	学びたいことを考える
2	法人制度(第2回～第6回)	法人制度の理解を、民法の債権法の段階から説明するとともに、法人制度の歴史をローマ法、中世ゲルマン法などを踏まえて学ぶ。	民法の債権法の部分をしっかりと予習復習する。
3	企業形態論(第7回～第12回)	合名会社、合資会社、株式会社、合同会社の特色を理解するため、それぞれの分類のメルクマールを学ぶ。特に、出資者の責任態様、機関の構造、開示制度などの特色を理解する。	会社法の基礎をしっかりと予習復習する。
4	資金調達(第13回～15回)	企業形態論の課題のひとつである経営財務論的な点から、企業形態別の資金調達の特色とステークホルダーの理解調整について学ぶ。	経営財務論の基礎をしっかりと予習復習する。  予習・復習それぞれ1.5時間程度。

### ◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

民法の債権関係の教科書、会社法の教科書、経営財務の教科書を読んでおくことが望ましい。

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

現代株式会社と私有財産/パーリー&ミーンズ著 森訳/北大出版会(2014年)

### ◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

出席状況を基礎にして小テストとレポートで評価をする。小テスト(50%)レポート(50%)

### ◆オフィスアワー

火曜日を除く4時20分から5時まで対応します。

### ◆その他受講上の注意事項

教科書と資料は受講生の目的に合わせて適宜対応します。